

NTR
マゾヒスト

寝取られ夫、
その妻に行ったインタビュー

貞操帯、外して欲しいなら
舐め奉仕ぐらいしろよ！
負け犬ッ！

私はあなたのこと...
もう『ごめんなね』の
ごめんなね(笑)

ごめんなね
ごめんなね

ごめんなね



この文章は、寝取られ夫の妻に行ったインタビューの書き起こしです。
また、このインタビューは『裏』が取れた部分のみ記載してあります。
この点を御理解ご了承の上、御一読ください。

【ご褒美は舐め掃除。】

夫が帰ってきたのは翌日の昼前だったわ。
会社から家まで、貞操帯丸見えの下着姿のまま、歩いて帰って来たみたい。
やっぱり『家』が大事なのね。
逆の立場だったら私は、もう帰ってこないもの。

いえ、夫が帰って来た時間に関して言えば、少し嘘をついたわ。
正確には…、よく知らない。
私が『夫が帰ってきてることに気が付いたのが、翌日の昼』ってこと。
だって、舞子様が玄関に

||寝取られ夫、パンツの手洗いテスト不合格につき、入室禁止。||

って真っ赤な字で書いた張り紙を張っておいたんだもの。
私も舞子様も温泉旅行の疲れで翌日の昼まで寝てたから、家の門のところ（ちようど家の中からも、外からも死角になるところがあるのよ）で股間を両手で押さえながら、モジモジする夫を見つけられなかったの。

舞子様はそのまま…。
うちの家から会社に向かわれたわ。

夫も後を追うように、会社に…♥
これは後から聞いた話だけど、この4日間、舞子様はもともと有給休暇を取ってあったから良いんだけど、夫は無断欠勤&遅刻という扱いになってから、『上司』である舞子様から会社で、たっつっつっつっつぷりとお説教してもらったあと、就業時間まで会社の廊下に立たされてたらしいわ。

胸に『僕は無断欠勤&遅刻しました。反省中です。写真ご自由にお撮りください』って書いたブラカードぶら下げてね♥
ああ、見たかったな〜♪

舞子様の話だと、夫はそれから『かなりしつかり働くようになった』らしいわ。
常に返事は『YES』で統一されたし、言われなくてもやって欲しいことを全てやるようになったんだって。

まあ、それが当然と言えば『当然』なんだけど…。

た・だあ…、舞子様の夫への人事査定評価はもちろん『最低ランク』
『クビにしたら他を雇うお金がかかるので、仕方がないから置いておく』だって(笑)。
このことは夫に、私の口から伝えておいたわ。
だって、その方が真剣に働くでしょ？

そろそろ貞操帯を嵌めて、3週間。

私、舞子様のご自宅にお呼ばれしたの。

『夫は連れてきても、連れてこなくても良い。

貴女の判断に任せるわ』

って舞子様から言われていたから、夫にはこう話したわ。

「ねえ…。

貞操帯…、ツライ？

良いんだよ、無理しなくて。

貞操帯外して欲しいんでしょ？

一緒に頼んであげよっか？

私が頼んだら、オナニー一回分ぐらいの間は外してもらえるかも…❤

ちようど今日、舞子様のご自宅にお呼ばれしてるから、一緒に来る？

あなたは呼ばれてないけど、『家の前まで私を送りに来た』ことにすれば、舞子様のご自宅前までは行けるでしょ？

妻を浮気相手の家の送り届けることになるけど(笑)。

一緒に…❤

夫婦そろって…❤

舞子様に土下座しよ？

ね？

でも、外してもらえなくても自暴自棄にならないでね。

コレ…、身に付けてるのはあなたが悪いからなのよ？

貞操帯があるから、あなたは私の傍に居られるの。

舞子様、言ってたわよ。

『貞操帯付けてから○○、ほんの少しマトモになった』って。

私もその通りだと思ふなあ❤

分かっていると思うけど…、私今日は舞子様のお部屋でセックスすることになると思うの。
もしかしたら、その前に…、

舞子様、あなたの貞操帯外すこと…お許しくくださるかも❤

知ってる？

舞子様って、私を抱く前…。

少しの間だけけど…、機嫌が良いのよ♥

その時がチャンス♥

『オナニーしたいですッ！』

寝取られ妻と舞子様のセックス見て、オナニーしたいですッ！』

って、言っただけ？

そうしたら、きっと貞操帯外してくださいから♥

貞操帯外してもらえたら、私と舞子様のセックス見ながらオナニーしよ？』

夫は正座したまま私を見上げて、目を潤ませていたわ。

小さな声で、「…はい。お願いします」だって(笑)。

だから念を押す意味で言っただけなの。

「でもこれだけは分かっておいてね。

まず、舞子様のご自宅に上がれるかは、舞子様次第。

必死で土下座して、お願いするんだよ？

そもそもあなたを連れて来いなんて一言も言われてないんだから。

私だって舞子様に叱られちゃうかも…。

その辺、寝取られ夫らしく、ちゃんとわきまえてよね。

次に、貞操帯。

必ず外してもらえらるってワケじゃないから！

もしも外してもらえないってなっても、舞子様や私に責任を押し付けないですよ？

もしもそうだったら…、あなたが悪いんだからね？

仕事中的ことや、プライベートの時間のあなたを見て、舞子様が総合的に判断するの。

『不合格』『却下』の場合は、あなたが悪いの。

全面的にあなたが悪い。

分かった？』

「はいッ！』

わかりました！

ありがとうございます！

ありがとうございますッ！！！！』

「ん♥

じゃあ、『舞子様のご自宅までお送りさせていただきます』っておねだりして？』

私は、裸で土下座する夫の頭を思い切り踏んで夫のうめき声を聞いてから、夫を舞子様のご自宅前まで連れていったわ。

想像以上の豪邸に夫は目を丸くした後、ますます自分の卑小さを思い知ったみたい(笑)。背中が丸くなってたわ♪

…で、夫は裸になって舞子様のご自宅前で土下座。

私は玄関に出てきてくださった舞子様の足元で土下座。

「すみません、舞子様。

夫がどくしてもオネダリしたいことがあるって聞かないので、連れて来てしまいました。どうかこの罪を…、私を罰してください」

私がそう言うと、舞子様は状況が理解できたらしく、

「そんな格好で家の外にいられると迷惑だわ。

侑希、○○。

まずは家に入りなさい」
って。

私は小声で夫に

「良かったね♥」

と言ったわ。

もちろん、夫が貞操帯を外してもらえないって分かってる上でそうしたのよ(笑)。

「まずは、侑希。

誰が○○を連れてきて良いって言ったの？」

舞子様の『演技』は見事だったわ。

もちろん私はそれに応える。

「すみません、舞子様。

でも夫が家でうるさくって」

「ふっくん？」

○○。

アンタ、家で侑希に何を言ったの？

せっかく会社でもプライベートでも『ほんの少くくくしマトモ』になって来たなって思ってたのに…。

私のいないところで、侑希に何をしたの？」

「いッ………、いえッ！

私が言い出したことでは…」

「は？」

侑希に何をオネダリしたのか、私はそれを聞いているの。
何を私にして欲しくて、ここに来たのか。

それを言いなさい」

「て…貞操帯の鍵を…」

「はあ〜くん？」

それって私の家に無断で来てまで、言うこと？

次私が『侑希の家』に来たら、オネダリすれば良いことでしょ？

わざわざ私の家に来て…、『オナニー許してください〜』？

ありえないくない？」

私は舞子様に聞こえるような声で、夫に言ったわ。

「ちゃんとオネダリして！」

舞子様のご機嫌を取りなさい！」

「あ…、あ…あ…あ…」

夫は恐怖で頭がフリーズしたみたい(笑)。

舞子様に睨まれたら、そりやそうなるわよね？

妻よりもず〜と可愛いくて、貞操帯の鍵を握っていて、妻を寝取った女だもの。

男だったら誰だって怖いわよね(笑)。

「ふ〜。

じゃ、いつも通りテストよ。

ただしいつもより厳しくするわ。

〇〇ツ！

あんたそこに寝なさい。

仰向けになって。

そうよ。

テスト内容は簡単♪

私をイカせてみなさい。

舌だけを使ってね。

私のパンツを舐めることを許可するわ。

パンツ越しに、私をイカせるの。

それが出来たら、オナニー一回だけ許す！

貞操帯を3分だけ外してあげる！

たあ〜だあ〜しい〜♪

もしも私をイカせられなかったら、罰を与えるわ。

今日から貞操帯嵌めたまま、毎日AV鑑賞(笑)。

絶対にオナニー出来ない状況で、毎日1時間AV鑑賞しなさい。

一日も欠かしてはダメよ。

必ず！

毎日！

1時間、正座してテレビの前でAV鑑賞ッ！

これがイカせられなかった時の罰よ。

分かったわね？」

舞子様の…、これ以上ないくらい譲歩してくださった御言葉に夫は必死で首を縦に振っていたわ。

普通なら、絶対ありえない光景だった。

だって妻である私の前で、妻である私を寝取った女に…、クンニ奉仕。

しかもイカせられなかったら、毎日1時間悶え苦しむことになるのよ？

普通なら挑戦しないし、拒否するところ。

でも夫は寝取られるだけじゃなくて…、貞操帯で強制オナ禁させられ続けたせいで、思考が『射精、射精、射精』。それしか考えられなかったみたい。

必死で首を縦に振っていたわ。

…馬鹿みたいだった。

そして、舞子様がスカートを脱いで仰向けになった夫の顔の上に腰を下ろしたの。

「女は定期的にセックスしないとイケないのよ。

必要なの。

だからアンタが舐めなさい。

本当は侑希が私に抱かれてるの、嫌なんでしょう？

つらいんでしょう？

ならアンタが、舐めて私を沈めなさい。

出来るものならね」

「…フアグッ！

ふあい…」



「じゃ、〇〇の本気度を見せてもらおうかしら？」

夫は必死で舐めていたわ。

私とシてた時だって、あんなに真面目にしてなかった。

ちよつと舞子様に嫉妬してしまうぐらい、必死でパンツを…(笑)。
そうよ。

夫が舐めていたのは、舞子様のパンツ。

舌は、マ〇コには到達できない。

マ〇コの表皮はもちろん。中まで挿入できることは絶対に無い。

それなのに、必死(笑)。

私は嫉妬しながらも笑っていたわ。

クスクスって。

自分の笑い声を聞いた時、初めて私は理解したの。

夫はもう『男』じゃない。

私の思う『本当の男』は…、ちゃんと中まで満たしてくれるもの♥

…？

舞子様がいったか？

イクわけないでしょ。

「〇〇。

もういいわ。

アンタに女を喜ばせる技量なんか期待した私が間違えてた。

もうやめなさい。

もちろん貞操帯は、外さない。

このまま『お預け』よ。

今日は侑希とセックスするの。

もう帰ってくれる？

邪魔だから」

夫は涙を瞳いっぱい溜めて、舞子様にすがったわ。

人間って本当に他人様の足にすがりつくのね。
でも舞子様はお許しにならない。

その代わり、約束通りの罰を与えたわ。

舞子様は、見飽きたレズモノのAVを何枚か夫ごと家の外に放り出して、

「それ見たら、明日会社で感想文書かせるから。

ちゃんと全部チェックしておきなさい。

ちゃんと見てなかったら、会社でまた『立たせる』わよ。

いいわね？」

夫が…。

いい大人の男が…。

大声で…。

ワンワン泣き叫ぶ声を聞きながら、私と舞子様は愛し合ったわ。

今までで一番燃えた…、熱いセックスだったわね。